

佐竹南家御日記

第十四卷

自 安永五年 至 天明元年

「佐竹南家御日記」は、湯沢の所預であった佐竹南家の御用座において天和二年（一六八二）から慶応四年（一八六八）まで書き継がれた公用日記です。地方武士の暮らしや農業、商業、交通、宗教、気象などが詳細に記され、当時の社会事情を知る貴重な近世史料です。本書は、安永五年（一七七六）正月から天明元年（一七八二）六月までの六年分を収録しました。

① 日善寺・広大寺・湯仙寺より麻疹が流行しているので祈祷を行いたいとの申し出がある。
(安永五年四・五月)

② 七月七日より大雨が降り続き洪水となり前森橋始め橋々が流れ落ち、外前森町の数十間の場所が孤立する。このほか藩内いたるところで水害となる。(安永六年七月)

③ 愛宕神社祭礼の折、飾り山を大町・田町・吹張町より差し出したい。奴も吹張町から出すので、昨年のおり大笠・立笠・長柄の袋を借用したいとの申し出がある。(安永六年七月)

④ 与下の中から十人を「御目付」に任命し、特別に夜間(季節により昼も)の見廻りを命じる。
(安永七年二月)

⑤ 十日夜四ツ半過(午後十一時頃)久保田城より出火し、御本丸並びに大御番頭担御門まで残りなく焼失したとの知らせがある。
(安永七年閏七月)

⑥ 生酒一升につき六十八文、中酒五十八文、並酒四十八文と定められる。(安永七年九月)



待望の第14巻発刊

⑦ 六日四ツ時(午後十時頃)前森町で火災が起き、家二十三軒、土蔵一棟、木屋二棟が焼失する。
(安永九年五月)

⑧ 十六日夜七ツ時(午前四時頃)院内で火事があり所預大山氏の御屋敷が焼失し、門だけが残る。
(安永九年六月)

⑨ 十八日夜七ツ時(午前四時頃)大きな地震(庄内地震)がありお伺いに出る。久保田の御殿の壁が四十間ほど崩れ落ち、御白洲にも被害がある。広小路筋では地割れし水が出てきた。(安永九年六月)

⑩ 中村丹下実第六弥に久保田正阿弥伝七(鑄工)より養子の申し出がある。六弥は、幼少の頃から金具細工をたしなみ、特別に養子となることが認められる。(安永九年十月)

⑪ 南家十二代義良、將軍家治に拝謁するため江戸へ御発駕したものの、洪水で横堀川橋が落ち通行出来なくなつたので、横堀村に逗留する。
(天明元年五月)

⑫ 有屋峠小道薄久内口で最上の者と思われる二人が米二俵を持ってきた。役人が見咎めたところ、米を置いて逃走した。(天明元年閏五月)

既刊好評発売中

第1巻～第13巻

※第2巻は完売につき御了承ください。

頒布価格 5,000円 (税込)

・ A5判・上製・布クロス装・函入
・ 本文780ページ ・ 出版250部 ・ 頒布価格5,000円 (税込)

・ 発行 湯沢市教育委員会
〒012-8501 秋田県湯沢市佐竹町1番1号
TEL 0183-55-8193 ・ FAX 0183-72-8515
Mail k-bunkazai@city.yuzawa.lg.jp